

児童がいきいきと学校生活を送るための教育条件整備の工夫 ～「遊びの広場」の開発を通して～

1. 設定理由

本校は、木更津市の南部にある「八幡台ニュータウン」の中に1981年に開校した。ここ数年、羽鳥野地区の開発が進み、児童数が増加している。今年度は、全校で865人が在籍する、市内で最も児童数の多い学校である。

児童数の増加に伴い、グラウンドの西側に南校舎を増設したため、グラウンドが狭くなってしまった。そのため、休み時間にはグラウンドに児童が溢れ、思いきり遊ぶことが難しくなっていた。児童も外で思いきり体を動かし遊びたいという思いを持っていたが、事故等の危険性を考慮し、2015年度よりグラウンドでのボール遊びが禁止された。その後は、多くの児童が鬼遊びや縄跳び等で遊んでいるが、遊ぶ場が減り、遊びも制限され、思いきり遊んだという実感が持てないようであった。

教職員からも「児童の願いを叶えてあげられないだろうか」「遊ぶ場を確保することはできないだろうか」などの意見が挙がった。そこで、学校の隣にある空き地（市が保有する中学校建設予定地）を、児童が活動できる場「遊びの広場」にできないかという案が教職員から出された。児童が思いきり体を動かし、いきいきと活動できる教育環境を整えていきたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

児童、教職員、地域が協力して、教育環境を整備していけば、主体的に活動できる児童が育つだろう。

3. 研究内容

- (1) 教職員・地域・ボランティアのとりくみ
- (2) 児童の活動と変容
- (3) 遊びの広場に関する児童の感想

4. 結 論

- ・「遊びの広場」を開発・整備することで、ボール遊びができるようになり、児童の遊びの幅が広がった。
- ・学級・学年・ペアでの交流が増え、自分たちで遊び方を工夫する姿が見られた。
- ・安全に遊べるように、「遊びの広場」の環境を整えようとする活動を児童自身で考えられるようになった。
- ・学校環境を整えるためには、教職員が学校の現状を把握し、自分たちでできることを考え、行政、保護者、地域に働きかけていくことが重要である。

児童がいきいきと学校生活を送るための教育条件整備の工夫 ～「遊びの広場」の開発を通して～

1. 主題設定の理由

(1) 学区の概要

本校は木更津市の南部に位置している。1981年、従来、山林であったところが開発されてできた新興住宅地「八幡台ニュータウン」の中に開校し、現在37年目を迎えている。ここ数年、羽鳥野地区の開発が進み、児童数が増加している。10年間で学級数は倍増、今年度は全校で865人が在籍する市内で最も児童数の多い学校(4月1日現在)になった。羽鳥野地区には新築の一戸建てが目立ち、今後数年間、児童数はさらに増加する見込みである。

保護者の教育的関心は高く、学校への期待も大きい。地域のボランティア活動も盛んで、環境整備や安全面だけでなく、学習面でも大変お世話になっている。開校当初は全国各地から移住してきた方が多く、地元意識は薄かったと推測されるが、自治会活動が活発に行われるようになり、最近では地域の結びつきも強くなってきている。

(2) 児童の実態

本校の児童は、素直で明るく人懐こいところが長所である。また、掲げた目標やめあてに向かって一生懸命にがんばろうとする。短所としては、自分の気持ちをうまく表現したり、相手の気持ちを察したりすることが苦手である。また、教職員が投げかけたことに対しては素直に受け止めて行動するが、自分たちで考えて積極的にアイデアを出そうとする児童は少なく、受け身の行動が多く見られる。

ここ数年の児童数の増加により、高学年は4クラス、低学年は5クラス規模である。校舎は各学年ごとに離れているため、学年単位で活動をする事が多く、他学年との交流は希薄である。

(3) 八幡台小の現状

児童数の増加に伴い、2010年度に北校舎、2015年度に南校舎を増設した。校舎の増設のため、グラウンドが狭くなってしまった。休み時間にはグラウンドに子どもたちが溢れ、思いきり遊ぶことが難しくなっていた。児童も外で思いきり体を動かし遊びたいという思いをもっていたが、事故等の危険性を考慮し、2015年度よりグラウンドでのボール遊びが禁止された。その後は、多くの児童が鬼遊びや縄跳び等で遊んでいるが、遊ぶ場が減り、遊びも制限され、思いきり遊んだという実感が持てないようであった。

教職員からも、「児童の願いを叶えてあげられないだろうか」「遊ぶ場を確保することはできないだろうか」などの意見があがった。そこで、学校の隣にある空き地(市が保有する中学校建設予定地)を、児童が活動できる場「遊びの広場」にできないかという案が教職員から出された。

上記の実態を踏まえ、児童がいきいきと活動できるようにするための教育環境を整え、主体的に活動できる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

児童、教職員、地域が協力して、教育環境を整備していけば、主体的に活動できる児童が育つだろう。

仮説のとらえ

本研究では、「主体的に活動できる児童」を次のようにとらえる。

- ① 自分たちで遊びの活動内容を考え、工夫する児童
- ② より安全で、より楽しい遊び場を、自分たちで整備していこうとする児童

3. 研究内容と実際

(1) 教職員・地域・ボランティアのとりくみ

① 「遊びの広場」の設置までの教職員の交渉

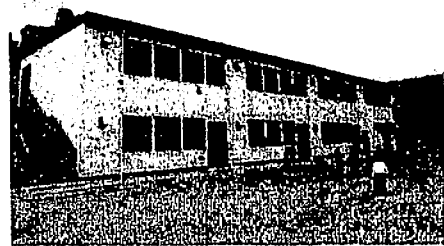
八幡台小学校敷地の南側に、市が保有する中学校建設予定地があった。八幡台小学校が開校した当時は児童数増加を見越していたが、建設されることはなく、長い間空き地となっていた。

一方で、児童数の増加に伴い教室の数が足りなくなってしまった。そこで、2014年度に南校舎建設工事が始まった。

工事中は車両出入りの通路確保で、かなりの面積が鉄板で仕切られ、グラウンドが縮小された。安全面の配慮から、今までは可能だった休み時間のボール遊びを禁止せざるを得なかった。2015年に工事は終了したが、安全面を考慮してボール遊びの禁止は継続された。

そのような状況の中、児童の運動・遊びの場を確保したいとの思いから、中学校用地を活用できないかと校長、教頭を通じて市に要望した。

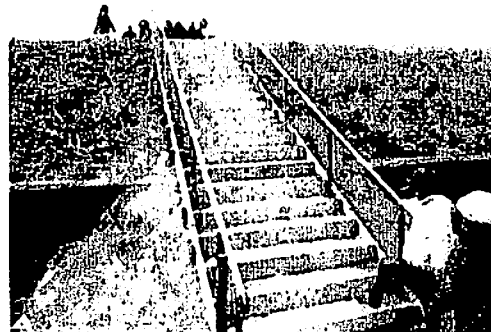
結果は、整備して使用してよいという回答だった。加えて、グラウンドから直接移動できるように階段の設置も要望し、設置していただいた。



【建設された南校舎】



【大人数が遊ぶグラウンド】



【遊びの広場への階段】

② 「遊びの広場」の開発

30年以上、市の保有する土地であったため、市の職員が何度か草刈りをしていましたが、土地の活用はされていなかったため、草木が伸び放題であった。児童が安全に活動するためには、しっかりと整備する必要があった。そこで、夏季休業中の教職員による作業のみならず、保護者・地域ボランティア・おやじの会・社会体育で活動している児童にも協力してもらい、草刈りを行った。



【草刈りの様子】

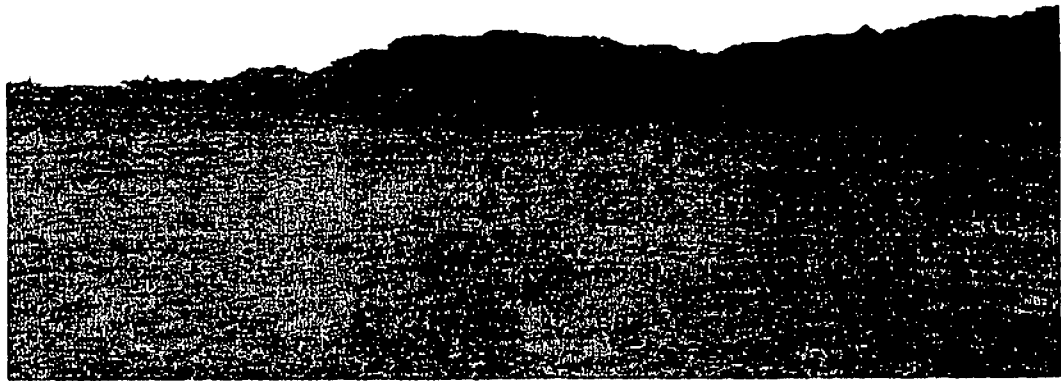
その結果、地面の凸凹は多少あるものの、児童が活動できるスペースを少しずつ確保することができた。初めはドッジボールコートで5、6面くらいの面積だったが、やりきれなかったところは教職員で作業し、面積を年々拡大することができた。刈り切れなかった奥の草や法面の草は、市に要望したところ、業者を入れていただくことができ、2016年度末にはきれいにすることができた。



【法面はかなりの草木が茂っていた】



【業者による除草作業後】



【2017年度夏の除草作業後】

③ 「遊びの広場」でのボール運動の解禁

本校では、2014年度より「知」「徳」「体」の3つのセクションに分かれて校内研修を行っている。その中の「体」セクションにおいては、「体力向上をねらった外遊びの在り方について研究する。」という目標をたて、具体的な実践方法について、以下のように研究してきた。

2014年度 外遊びの奨励とその方策について

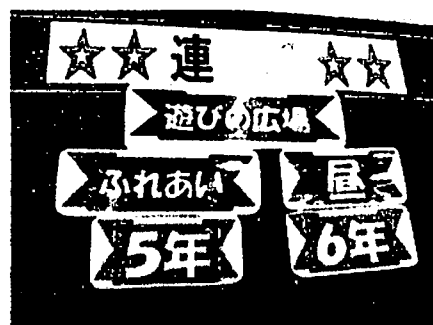
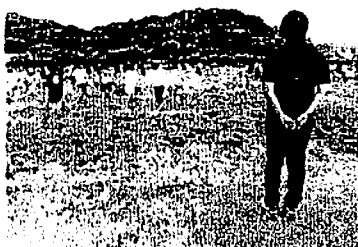
2015年度 投力の向上と「遊びの広場」の具体的な活用方法について

2016年度 ボール運動の解禁と体力テストとの関連について（投力向上）

本校の体力の実態として、投力が低いという課題が以前から挙がっていた。そこで、2015年度から投力の向上を念頭に置いた活動がスタートした。2016年度には今まで禁止されていたボール運動を復活させたいという体育主任の願いから、「遊びの広場」においてドッジボールができるように話し合いを重ね、ボール運動の解禁がなされた。「体」セクションおける、昨年度の投力の記録によると、まだまだ課題はあるものの、「遊びの広場」におけるボール運動の解禁によって、投力の向上にも一定の効果があった。

④ 「遊びの広場」の維持

遊びの広場は、校舎から少し離れた場所にあるため、教職員の目が行き届きにくい。そこで、安全面を考慮し、昨年度より遊びの広場に立ち当番を置くことにした。全教職員で当番を割り振り、業間休みと昼休みに児童の様子を見守っている。



【教職員の当番の様子】

(2) 児童の活動と変容

I 自分たちで活動内容を考え、工夫する児童

① 遊びの工夫

現在、「遊びの広場」ではボール遊び限定となっているため、ほとんどの児童がドッジボールを行っている。何もない広場であったが、児童は自分たちの足で線を引いてドッジボールコートを作ったり、人数によってコートの大きさを変えたりと工夫しながら遊んでいる。

また、線がなくてもできるボール遊びとして、5歩だけ歩いて、逃げる児童を当てる遊びなども考えられた。

② ペア交流、学年・学級レクの工夫

「遊びの広場」では多くの児童の交流が見られる。休み時間には、男女一緒に、クラスの仲間と楽しそうにドッジボールをする姿がみられるようになった。クラスの垣根を越え、自然と学年の友だちが集まり、遊んでいる様子も見られる。

また、「遊びの広場」を使って学級レクを企画したり、ペア学年でのレクを企画したりと、使い方も工夫されるようになった。

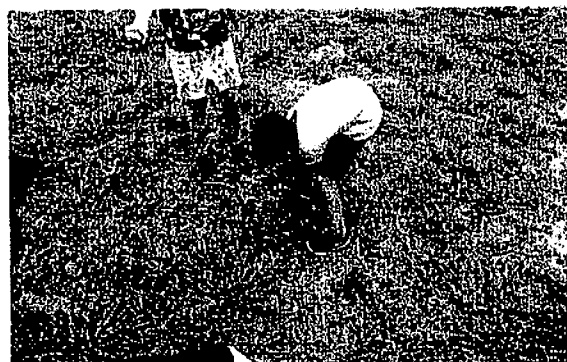


【ドッジボールをして遊ぶ児童】

II より安全で、より楽しい遊び場を、自分たちで整備していこうとする児童

① 体育委員会の活動

遊びの広場には、草木だけでなく、大小たくさんの石が落ちている。ボール遊びをする際に、つまづいて危ないとの思いから、体育委員会の話し合いで「石拾いを行いたい」という意見が出た。現在5、6年による体育委員会の児童が、休み時間に遊びの広場の石拾いをを行っている。定期的に石広いを行うことで、安全に遊べる環境づくりを行っている。



【石拾いを行う体育委員会の児童】

② 卒業生ボランティア

2015年度、卒業奉仕作業の一環として、「遊びの広場」をきれいにしたいという意見が6年生の児童から出された。整備のための草刈り作業の途中ではあったが、刈った草がそのままになっていたり、ゴミが落ちていたりしている状況だった。そこで、「来年度、気持ちよく使ってほしい」との思いから、3月に作業を行った。学校のために、下級生のためにという気持ちを持ちながら、一生懸命に草を集めたり石やゴミを取ったりしていた。

(3) 「遊びの広場」に対する児童の感想

遊びの広場に関するアンケートを低・中・高学年の抽出学級で行った。アンケートでは以下の質問を行った。 (2017年7月実施)

1. 「遊びの広場」ができた感想や意見を書いてください。

- 〈多かった回答〉
- ①ドッジボールができるようになって嬉しい
 - ②遊ぶ場所が増えて嬉しい
 - ③グラウンドが広く使える、のびのびと遊べる

2. 「遊びの広場」ができる前とできた後で、グラウンドの様子は変わりましたか。

- 〈多かった回答〉
- ①グラウンドで遊ぶ人数が少なくなり、広く使えるようになった
 - ②空いていてぶつからなくなった
 - ③遊具が使いやすくなった

3. 「遊びの広場」に増やしてほしいものや取り入れてほしいことはありますか？

- 〈多かった回答〉
- ①ドッジボールコート
 - ②タイヤ、土管、遊具など
 - ③柵

アンケートをとって見たところ、どの学年もそれぞれ「遊びの広場」を利用していることがわかった。特に中学年、高学年の児童の利用が多いようである。アンケート結果

より、「遊びの広場」について児童からは「グラウンドが広く使える」「ボール遊びができて嬉しい」等の前向きな感想が多く挙げられた。(資料参照)

4. 結論

《成果》

- 遊びの広場を開発・整備することで、ボール遊びができるようになり、児童の遊びの幅が広がった。学級、学年をこえて様々な交流が見られるようになった。
- 児童は、自分たちでドッジボールコートを作ったり石拾いをしたりして、楽しく遊べるように、自主的に工夫して活動できるようになった。
- グラウンドが広く使えるようになり、のびのびと走り回ったり遊んだりできるようになった。
- 学校の現状を把握し、児童にとって過ごしやすい環境を作るために行政に働きかけることができた。
- 遊びの広場の設置にあたり、保護者、児童、地域の方、学校支援ボランティア、教職員など、様々な方の協力により環境を整えることができた。

《課題》

- 遊びの広場の設置、開発にはたくさんの方々の協力が必要であった。今後も草刈りや石拾いなど、今のような状態を維持していくための協力体制について考えていく必要がある。
- 児童のアンケートからボール遊び以外の遊びも取り入れてほしいという意見もあり、今後どうしていくかを考えていく必要がある。

《まとめ》

学校環境を整えるためには、教職員が学校の現状を把握し、自分たちでできることを考え、行政、保護者、地域に働きかけていくことが重要である。

資料

<2016年度 「ソフトボール投げ」の記録>

○抽出学級によるソフトボール投げの記録



<男子：ソフトボール投げ> 2月

学級	6月	11月	2月	6月と2月の比較
1-1	6.93	7.07	7.64	+ 0.71
2-1	11.35	12.43	13.82	+ 2.47
3-4	15.26	15.31	16.54	+ 1.28
4-3	16.19	17.33	17.30	+ 1.11
5-2	18.35	19.62	20.92	+ 2.57
6-3	23.61	26.89	27.83	+ 4.22

<女子：ソフトボール投げ> 2月

学級	6月	11月	2月	6月と2月の比較
1-1	5.76	5.92	7.69	+ 1.93
2-1	8.26	8.93	9.38	+ 1.12
3-4	9.31	9.74	8.94	▲ 0.37
4-3	9.68	11.13	11.71	+ 2.03
5-2	12.06	14.06	13.69	+ 1.63
6-3	13.10	16.63	16.89	+ 3.79

<「遊びの広場」に関する子どもたちの感想>

おそこの広場で遊んでいる人へ - おそこの広場ができた 遊びの広場を遊ばせよう。

ボクボールでみんながボールを遊ぶ時間があるよ。

とても楽しい広場だよ。と書いています。

おそこの広場のみんなへ - おそこの広場ができた。遊ばせよう。

おそこの広場で遊んでいる人へ - おそこの広場ができた。遊びの広場を遊ばせよう。

おそこの広場ができた。みんながボールを遊ぶ時間があるよ。

とても楽しい広場だよ。と書いています。

おそこの広場のみんなへ - おそこの広場ができた。遊ばせよう。

おそこの広場で遊んでいる人へ - おそこの広場ができた。遊びの広場を遊ばせよう。

おそこの広場ができた。みんながボールを遊ぶ時間があるよ。

とても楽しい広場だよ。と書いています。

おそこの広場のみんなへ - おそこの広場ができた。遊ばせよう。

おそこの広場で遊んでいる人へ - おそこの広場ができた。遊びの広場を遊ばせよう。

おそこの広場ができた。みんながボールを遊ぶ時間があるよ。

とても楽しい広場だよ。と書いています。

おそこの広場のみんなへ - おそこの広場ができた。遊ばせよう。